

# 広島県立広島高等学校公民科学習指導案

指導者 高山望

- 1 日時 平成21年11月12日(木) 第4時限(12:50~13:45)
- 2 対象 高等学校第1学年1組 普通クラス39名(男子18名 女子21名)
- 3 場所 高等学校第1学年1組教室
- 4 単元名 豊かな生活の実現 【現代の雇用・労働問題】
- 5 単元について

単元観	バブル崩壊後の経済状況のなかで、日本的雇用形態が大きく変化したこととその影響について学ぶ。フリーターやニートの増加の背景や影響、過労死をはじめとする労働災害、労働時間短縮、女性の労働など、在り方生き方に関わる内容を多く扱う単元である。
生徒観	基礎的内容は理解しており、図表や資料から情報を読み取り発表することもできる。ただし計算力に若干不安がある。また発問に対して解答する際に失敗をおそれる傾向が見られる。定期テストには試験対策をして臨み、平均点を下回ると悔しがる場所がある。基本的知識を活用して考察する力を伸ばすことが課題である。
指導観	事前に与えた課題の学習内容や授業中の発問に対する答えを元に授業を展開し、一方的な講義でない双方向の授業を展開したい。また、用語としては知っている事象について「なぜそうなのか」を考えさせ知的好奇心に訴える授業としたい。

## 6 単元の目標

経済社会を担う消費者・勤労者・納税者・生活者の立場に立って、生活の質を上げていくために主体的に考えることができる。

## 7 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用 of 技能・表現	エ 知識・理解
フリーターなど現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	雇用の在り方や労働問題について国民福祉向上の観点から考察し、公正な判断ができる。	現代の雇用・労働問題について、図表や新聞記事から読み取り、自分の考えをまとめ表現することができる。	現代の雇用・労働問題に関する基本的な事項について理解している。

## 8 単元の指導計画

### 豊かな生活の実現

- 1 時限目 自立した消費者への道
- 2 時限目 公害の防止と環境保全
- 3 時限目 労働者の権利
- 4 時限目 現代の雇用・労働問題(本時)
- 5 時限目 社会保障の役割

## 9 教科のテーマ

生徒の主体的学習活動を促す授業の工夫 ー知的好奇心と双方向性を重視してー

## 10 本時の展開

- (1) 本時の目標 フリーターやニートが増えた背景と、それらの増加が社会にもたらす影響から、雇用安定の重要性を考える。

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 評価規準 (評価方法)
導入 5分	<p>本時の学習目標を確認する <b>&lt;現代の雇用問題&gt; (教 116)</b></p> <p>事前課題から発表する。</p> <p>賃金・労働時間・社会保険加入の有無など、労働条件はさまざまであることを確認する。</p>	<p>求人広告の切抜き課題による。</p> <p>時給と勤務日数をもとに年収を求め、世帯平均所得 566 万円、中央値 451 万円 (2007 年) と比べる。</p>	<p>【技能・表現】 事前課題をもとに質問を理解し発表する。 (発表)</p>
展開 45分	<p><b>I 日本的雇用の変化</b></p> <p>高度経済成長期に広がった日本の経営方式といわれるものは何かを理解する。</p> <p>「中小企業」の単元で学習した、生産性と賃金との関係を思い出す。</p> <p>バブル崩壊と経済のグローバル化にともなって日本的経営方式はどのように変化したかを考える。</p> <p>いわゆる正社員以外の雇用である非正規雇用はどれくらいいるのか予想する。</p> <p><b>II なぜフリーターやニートを選ぶのか</b></p> <p>フリーター、ニートの定義を説明し、フリーターの人数を予想する。</p> <p>なぜフリーターになるのかについて推測し、資料により確認する。</p> <p>なぜ「モラトリアム型」や「やむを得ず型」のフリーターが発生するのかを考える。</p>	<p>日本的経営方式とは「終身雇用制」「年功序列型賃金制」「企業別組合」を指す。</p> <p>高度成長期には生産性が上昇したことが賃金上昇を可能にした。</p> <p>バブル崩壊、グローバル化の中で企業は生き残るために省力化、コスト削減を進めた。</p> <p>日本の人口 1 億 2000 万人、就業者数 6300 万人、雇用者数 5400 万人であることを知らせて、正社員数(3400 万人)、非正社員 (1700 万人) について予想させ、資料集 116 の 5 で確認させる。</p> <p>資料 68 では、フリーターは約 181 万人、ニートは 61 万人である (07 年)。ただし定義により数字は違ってくことに留意する。</p> <p>小杉 (2002) より、調査結果を紹介する。就職経験なしが 63% (うち 2 割は中退後)、「モラトリアム型」39%、「やむを得ず型」33%など。正社員になろうとしたことがあるものが 63%、そのうち 63%が実際に正社員になっている。ただしフリーター期間が 2 年を超えると正社員になろうとしなくなる傾向が見られる。</p> <p>フリーターから正社員になるのは簡単ではないこと、職業訓練も受けていないニートならなおさら困難であることを指摘する。</p>	<p>【知識・理解】 高度成長を可能にした要因を理解している。(発問への答え)</p> <p>【知識・理解】 これまでの不況期に企業がとってきた対応を理解している。 (発問への答え)</p> <p>【思考・判断】 就業者数、雇用者数をもとに予想する。(発表)</p> <p>【思考・判断】 就業者数、雇用者数をもとに予想する。(発表)</p> <p>【思考・判断】 言葉から受けるイメージから自由に予想する。(発表)</p> <p>【思考・判断】 タイプ別の発生割合を示し、理由を予想する。(発表)</p>

<p><b>Ⅲ フリーター、ニートが増えることによる影響</b></p> <p>フリーターなど、不安定な雇用が増えると、個人にはどのような影響を及ぼすかを考える。</p> <p>フリーターやニートが増えることは、社会にどのような影響を及ぼすかを考える。</p> <p><b>Ⅳ 雇用安定のために何が必要か</b></p> <p>フリーターやニートの立場なら、企業や政府に何を求めるかを考える。</p> <p>正社員なら何を求めるかを考える。</p> <p>雇用が不安定であることはさまざまな問題を引き起こすから、雇用を安定させるために何が必要かを考える。</p> <p>(以下は時間次第)      &lt;今日の労働問題と社会参加への道&gt; (教科書 116-117)      現代では労働条件確保のための法整備は進んでいるが、実際には多くの課題が存在することに気づく。</p>	<p>資料 116 の 15 の(2)から、非正社員の年収が低いこと、また年齢が上がるほど正社員との差が開くことを読み取る。(求人広告の「社保」に触れる。)</p> <p>概ね年収 130 万円以下は年金に加入していない。現在の生活も苦しいが将来も不安であり、結婚できない、子どもも育てられないという悪循環となる。</p> <p>国民年金の保険料未納による年金財政の悪化、出生率の低下、高齢化率の上昇などが考えられる。</p> <p>学生向けにはインターンシップ、既卒者向けには J O B カフェやトライアル雇用事業、日本版デュアルシステムがある。資料 68</p> <p>正規雇用者にも競争的な賃金制度が広がっており、「フリーターでなければ全く安心」という状況ではない。</p> <p>ワークシェアリング、同一労働同一賃金、国全体の経済成長実現などが考えられる。</p> <p>失業率の上昇、労働災害(過労死やテクノストレス)、外国人労働者の問題、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法など、労働に関連する問題は数多い。</p>	<p><b>【資料活用の技能】</b>          グラフから数値を読み取ることができる。(発表)</p> <p><b>【思考・判断】</b> 年収が低いことは自分の生活にどんな影響をもたらすか考察する。(発表)</p> <p><b>【思考・判断】</b> フリーターやニートが増えることは社会にどんな影響をもたらすか考察する。(発表)</p> <p><b>【思考・判断】</b> 定職につきたいのに自分に合った仕事が見つからないものはどうすればよいのか考察する。(発表)</p> <p><b>【思考・判断】</b> 日本的経営方式が変化した背景をふまえて雇用安定の方策を考察する。(発表)</p>
<p><b>まとめ</b></p> <p><b>5 分</b></p> <p>本時の学習を振り返る。</p> <p>フリーターの多くは自分の雇用についてどう考えているのか、正社員だけが安定していればいいのかについて考えをまとめる。</p>	<p>(日本的経営方式は大きく変化し、非正規雇用が若者を中心に大きく増えており、雇用の確保や収入の安定をはかることが個人にとっても社会にとっても重要である。)</p>	

**○授業参観者に見てもらいたいポイント**

- 1 「なぜそうなのか」を生徒が十分に思考する授業になっているか。
- 2 生徒の課題成果や発問への答えを生かした授業になっているか。